

# 参議院自民党 不安に寄り添う政治のあり方勉強会 中間報告(第2弾)概要

## 1. 検討の経緯

- 昨年10月以来、①地域の医師不足、②独居高齢者・孤独死、③地域の消滅・崩壊の3つの不安について検討。昨年12月に中間報告。
- 年明けからは「若者の不安」も加え、これまで18回の勉強会を開催。のべ26名の有識者からヒアリング。
- 青森県への現地視察や島根県の方とのオンライン意見交換も実施。こうした精力的な検討を経て、6月に中間報告(第2弾)を取りまとめた。

## 2. 基本的な考え方

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という、かつてない厳しい状況の中、健康面・経済面の不安が大きくなり、人々の抱える不安や懸念は一層深刻なものとなっている。
- 国難とも言えるべき厳しい危機の時こそ、厳しい現状に目を向け、不安を抱える人々の声に耳を傾け、解決策を探り、対応を講じていくことが政治の責任。

## 3. 対応の方向性

### (1) 地域の医師不足

- ① 初期臨床研修における、地域医療研修の充実
- ② へき地等におけるオンライン診療・服薬指導による「医療へのアクセス確保」
- ③ 住民の健康だけでなく暮らしを支える総合診療医の育成 など

### (2) 独居高齢者・孤独死

- ① 「孤独死対応基本法」(議員立法)の制定
- ② 「見守り」の担い手確保とアウトリーチの徹底
- ③ ウェアラブル端末等 ICT の活用支援 など

### (3) 地域の消滅・崩壊

- ① 地域おこし協力隊をはじめとする地域サポート人材の確保
- ② 地域における5G環境の整備(「過疎地にも」でなく「過疎地から」)
- ③ 過疎地、辺地など条件不利地域対策の強化 など

※ 参議院自民党では、引き続き全議員の力を結集し、現場を歩き、若者をはじめ当事者の生の声を丁寧に受け止め、活動を深化させていく。